

立命館大学
応用人間科学研究科
Graduate School of Science for Human Services

東日本大震災 シンポジウム

東日本大震災と対人援助

2013・2/10 日

立命館大学 朱雀キャンパス 1階多目的室2 10:00~16:30



©xtcbz

応用人間科学研究科は、「諸科学の連携と融合」を合言葉に、対人援助学という新しい学問領域の創造に取り組んでいます。2011年の東日本大震災に対しても、研究科として何ができるのか、何をなすべきなのかを積極的に問いかけ、考え、そして実践してきました。震災から2年が経とうとしていますが、今、なおこれからの日本の再生・復興まで長い年月が必要でしょう。私たちは10年先を見通した対人援助の支援をしようと決意しました。その歩みは、我々のホームページに随時、掲載してきました(立命館大学応用人間科学研究科 震災復興支援プロジェクトHP)。

今回のシンポジウムは、これまでの研究科の取り組みを振り返りながら、新しい学問領域の創造に寄与する試みとして開催します。復興支援の実践活動の中からしかとることのできない視点で、既存の対人援助を見直し、新たな対人援助に必要な要素を見つけていきたいと考えています。そのため、現地で持続的な支援を続けている3人のゲストをお招きし、その後の討論をじっくりと行うことにしました。皆様との積極的な意見交換を期待しています。

また、今回の企画では立命館大学社会連携課が開催しているシネマ企画「シネマで学ぶ 人間と社会の現在」でも東日本大震災に関連した映画を上映する予定ですので、併せてご参加いただけると幸いです。

団 士郎 家族漫画展

2013・1/18(金)~2/17(日)

展示時間 8:30~20:30

立命館大学 朱雀キャンパス 1階ロビー周り

「木陰の物語」の原画パネルを展示しています。
ゆっくり楽しんでご鑑賞ください。



2/10日

- 立命館大学朱雀キャンパス 1階多目的室2
- 10:00~16:30

[スケジュール]



9:30 ●受付・開場

10:00 ●開会あいさつ 立命館大学大学院応用人間科学研究科 研究科長 荒木 穂積

午前の部 復興支援と対人援助～サービスラーニングの観点から

- 話題提供 司会:立命館大学大学院応用人間科学研究科 教授 村本 邦子
- 話題提供者 立命館大学大学院応用人間科学研究科院生 西木 多賀子(臨床心理学領域M2) 清武 愛流(対人援助学領域M1) 藤原 佳世(臨床心理学領域M1)

- ディスカッション コメンテーター 立命館大学大学院応用人間科学研究科 教授 中村 正 立命館大学 政策科学部 准教授 桜井 政成

12:00 ●休憩

午後の部 東日本大震災と対人援助

13:30 ●研究者発表 司会:立命館大学大学院応用人間科学研究科 副研究科長 谷 晋二

[ゲスト]



河野 暁子氏
臨床心理士。2006年より国境なき医師団に参加。パレスチナ等へ派遣される。同団体に東日本大震災被災地の宮城県南三陸町、岩手県宮古市田老で活動。2011年10月から2012年3月まで、千葉大学こころのケアチームに所属し、岩手県一関市で活動。現在は、岩手県こころのケアセンターの大船渡地域こころのケアセンターに勤務。



上山 眞知子氏
山形大学地域教育文化学部教授
臨床心理士、言語聴覚士、1989年～2002年 宮城厚生協会坂総合病院臨床心理士、2002年より現職(学部及び大学院担当)
領域:臨床心理学、発達心理学
今回の大震災では、教員支援組織「ケア宮城」を立ち上げ、心理社会的ケアに取り組んでいる。



J.F.モリス氏
宮城学院女子大学国際文化学科教授
1989年より宮城学院女子短期大学(2000年に大学に改組)で「日本文化論」を担当。東北大学文学博士(日本史学)。専門は日本近世史。
3.11の津波襲来後、「ケア宮城」の立ち上げに参加。資料ネットの活動、被災地における外国人支援、学生の心理社会的ケアに取り組んでいる。

- 休憩
- ゲストによるディスカッション 45分(ファシリテーター 谷 晋二)
- フロアとのディスカッション 30分

16:30 ●閉会 司会 村本 邦子

1/18金～2/17日

- 立命館大学朱雀キャンパス 1階ロビー周り
- 展示時間 8:30～20:30



小さな物語が果たす役割

世の中にはたくさんの物語があります。それは人々が皆、それぞれの場所で現実を引き受け、精一杯生きてきた証です。嬉しい話ばかりでも悲しい話ばかりでもありません。特定の場の限られた人だけのものでもありません。そんな物語が世界に溢れています。私たちは時として、思いがけない物語の主人公になる事になります。けっして予想した巡り合わせではありません。むしろ考えたこともなかった物語に巻き込まれる方が多いのかもしれない。被災地で今、大変な思いをしながら暮らす人たちは、まさにそれだと思います。しかし人は一つだけの物語を生きてはいません。一人ひとりはいかに他にもたくさんの小さな物語を持っているはず。私はこれまでたくさんの人たちの小さな記憶をすくい取って、一編の物語にする作業を10年以上、雑誌連載の形で続けてきました。それは、自分のことではない誰かの物語に触れることで、人の中に生まれる力があることを信じているからです。誰かの物語に共感することが自分のエネルギーになるのです。被災した皆さんが今、誰かの物語に触れることは、大きな物語(被災)に圧倒され、遠くに押しやられてしまっているかもしれないで自分の、たくさんの小さな物語が呼び戻されることに繋がるのではないかと思ったのです。人は皆別々ですが、孤立してはいません。私たちは隣り合った人たちと共有の物語を創り、それぞれが主人公として、そのドラマを生きています。

[プロフィール]

立命館大学大学院応用人間科学研究科教授。公立の児童相談機関心理職25年を経て独立。「仕事場 D・A・N」主宰。家族療法の実践をしながら、講演やワークショップを全国に展開。



関連企画

シネマで学ぶ「人間と社会の現在」

1/19土・2/16土・3/9土

- 立命館大学朱雀キャンパス 5階大講義室
- 13:00開演、13:30開演 ■対談:15:30～16:30(上映時間により多少異なります)

1/19土 その街のこども 劇場版

- 【対談】 ゲスト:渡辺 あやさん(脚本家) 聞き手:中村 正(立命館大学大学院応用人間科学研究科教授)

2/16土 傍一かたわら3月11日からの旅—

- 【対談】 ゲスト:村本 邦子さん(立命館大学大学院応用人間科学研究科教授) 聞き手:中村 正(立命館大学大学院応用人間科学研究科教授)

3/9土 生き抜く南三陸町 人々の一年

- 【対談】 ゲスト:井本 里士さん(MBS毎日放送「VOICE」編集長) 聞き手:団 士郎(立命館大学大学院応用人間科学研究科教授)

交通アクセス

